



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-220-2366



サッカー部の思い出

武田和行



マコチャン(宮本先生)は本校に赴任以来、生活指導を始め多岐にわたって活躍をしてきています。特に、生徒・保護者からの信頼が厚く、同僚教員(卒業生教員・元サッカー顧問)として誇りに思っています。このサッカー新聞も彼の人柄のお陰だと思ひ、田辺先生・井上先生も出筆されていますので、若干でも関わった私も、思い出の一つ二つを書かして貰います。

約30年前、出来の悪い卒業生教員として、城北学園の数学教師として教師生活をスタートしたのですが、私の恩師である故中田先生がサッカー部の顧問ということで、付き添いのような形でサッカー部の顧問になったと思います。中高を通してスポーツをしたことのない自分ですので、ジャージ姿で生徒たちを指導したことは一度もありません。ただ、練習試合・公式戦等に観戦しただけで、練習・戦術・生徒指導等はすべて井上先生、岡光さん、吉田君(サッカー部出身の卒業生)におんぶにだっこ状態でした。そんな中でも、特に記憶していることは、福山誠之館高校で戦った対国泰寺高校戦です。この年は戦力も整い、連携プレイも良く戦前から他の高校からも高い評価をうけていました。試合が始まって5分の間に2点を取られました。実は1点目は確実にキーパーチャージだったのです。その時にすでにキーパーの村上君は手首を骨折していたのです。2点目を簡単に取られた段階でレフリーがようやく村上市君の異変に気づきキーパーを交代させたのです。村上君をすぐに病院に連れてゆき治療してもらい再び帰ったときは、1点取り返し1対2の後半30分過ぎだったと記憶しています。国泰寺の選手が自陣でボールを回し明らかに時間稼ぎをしていると、保護者のMさんが「これが国泰寺のサッカーか」と怒鳴られる声が印象に残っています。残念ながら負けはしましたが、城北高校サッカー部の語り継がれる

城北高校サッカー部に育てられて

(現在進行形)

30回生 菊一 滋

皆さん、こんにちは。昨年、卒業から8年目にして、僕としてはようやくと広島に戻ってきました。宮本先生からの教えである「自分が好きなことに本気になれない奴はグラウンドから降りろ。そんな奴何をやってもダメだ。」という言葉も正直にも信じ続け、広島城北高校サッカー部のトレーナーとして活動しようと、昨年からは本格的に勉強を始め、現在に至っています。

チームではコンディショニングトレーナーという肩書きを頂いていますが、まだまだ未熟でケガ人が出ると冷や汗が出るというのが実際に、一年が経過し、些細なケガならなんとか対応出来るようになってきたという感じの今日この頃です。

高校時代の思い出といえば、いろいろありますが、思い出せばサッカーをしていたことばかりが思い出されます。そんな中でも、

習試合・公式戦等に観戦しただけで、練習・戦術・生徒指導等はすべて井上先生、岡光さん、吉田君(サッカー部出身の卒業生)におんぶにだっこ状態でした。そんな中でも、特に記憶していることは、福山誠之館高校で戦った対国泰寺高校戦です。この年は戦力も整い、連携プレイも良く戦前から他の高校からも高い評価をうけていました。試合が始まって5分の間に2点を取られました。実は1点目は確実にキーパーチャージだったのです。その時にすでにキーパーの村上君は手首を骨折していたのです。2点目を簡単に取られた段階でレフリーがようやく村上市君の異変に気づきキーパーを交代させたのです。村上君をすぐに病院に連れてゆき治療してもらい再び帰ったときは、1点取り返し1対2の後半30分過ぎだったと記憶しています。国泰寺の選手が自陣でボールを回し明らかに時間稼ぎをしていると、保護者のMさんが「これが国泰寺のサッカーか」と怒鳴られる声が印象に残っています。残念ながら負けはしましたが、城北高校サッカー部の語り継がれる

現在サッカー部の部長をして頂いている黒瀬真造先生は僕の中で不思議と惹かれる存在の方です。

黒瀬先生は僕らが高校三年生になる時だったと思うのですが、御本人にとっては幸か不幸か、顧問としてサッカー部に足を突っ込まれました。その時のことを今でも思い出しますが、サッカーも知らない、僕にとっては接触したこともない人間が突如としてサッカー部の顧問になったというのに、不思議と違和感というものを感ぜさせず、すんなりとサッカー部に溶け込まれたのでした。

これまで歩いてきた道は全然違う方だと思ひます。だからこそ、僕にとってはすごく興味深い話がたくさん出てきます。でも、どこかで似た臭いを感じることもある方です。黒瀬先生と話をすると、人間、その人の生きてきた道やそこでの体験が滲み出てくるものなんだと思ひ知らされ、黒瀬先生の偉大さを改めて痛感します。そんな方が顧問をされているということは、広島城北サッカー部にとつてはものすごい財産だなど、僕は感じ

試合だと思ひます。それとも一つは合宿です。島根県の瑞穂で合宿したのですが、その時は他の顧問の先生がおられず珍しく私一人が付いていたように記憶しますが、朝早く起きて生徒と一緒にグラウンドを走った気がしますが、一周も出来ない状態で、部員から失笑され、夜は夜で馬鹿騒ぎをしたのは本当に良き思い出です。

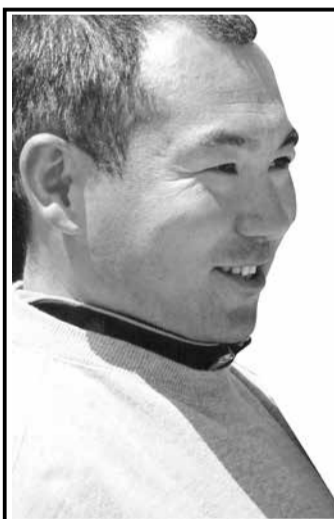
顧問を外れて十数年、現在は宮本・黒瀬・大下各先生方のお陰で文武両道のできる生徒を本当にうまく育てておられます。これから益々城北サッカー部関係者が活躍されることを祈念するものです。

最後に、病気で倒れた高3の篠原君が順調に回復されているとの事、本当によかったと思ひます。

ホームページを開設しました

http://saijodan.picot.ne.jp

是非ご覧ください



僕らより上の年代の先輩方は黒瀬先生のことをあまり知らないかと思ひますが、一度黒瀬先生を捕まえて、話をしてみたい!!!

きつと、面白い方だと思ひます。そして、サッカーバカだった僕らとは違うジャンルの人間に触れあうことで、何か新しいものが得られるんじゃないかなと思ひます。来年の初蹴り後のOB総会には無理矢理にでも来て頂きます。そこで、是非一度話をしてみたい。それまで待てないという方は、最上段にじゃんじゃんお越し下さい。

今考えること

こんにちは。31回生の神尾智彦です。

皆さんお元気でしょうか?

城北高校サッカー部もスタッフが充実し、県大会出場が当たり前のチームになったそうで、さらには、全国を目指してがんばっていただきたいと思います。全国出場なんて、自分が高校生のころは、全く考えてもいなかったことで、宮本先生をはじめ、城北高校サッカー部にかかわる方々の情熱の賜物だと感慨深く思ひます。

私の近況としては、昨年、長かった学生生活に終止符を打ち、広島は横川に本社があります第一学習社に就職いたしました。高校生のころは、皆さんも国語や理科などの教科書・副教材を使っていたことと思ひます。そこで、社会科の編集をしています。大きな会社ではありませんので、5月から7月の高校ごとの教科書選定の時期には、編集部からも営業応援として全国の高校を訪問して、教科書の採択をお願いして行脚します。1年目の昨年は、城北高校にもうかがいました。卒業してかなりの時間が経過しているにもかかわらず、非常に多くの先生が私のことを覚えておられて、アットホームな雰囲気を楽しませていただきました。城北についてはこやなあ、と改めて感じました。

昨年は愛知県・長野県の高校をまわり、今年は大分県・宮崎県をまわっています。近くにお住まいの方は、ぜひ呑みにいきましよう。全国のおいしい酒を呑むことが楽しみの一つでもあります。それ以外の期間は広島で働いておりますので、広島で呑みに行く際は声をかけてください。

さて、高校時代の思い出といえば、試合のことはあまり覚えておりませんが、むしろ練習のことをよく覚えております。中学校では、サッカー部がなく、野球部に所属していたので、ほとんど初めてサッカーをする状態で高校に入学し、毎日必死で練習したことをよく覚えております。暇さえあればグラウンドの横の壁に向かってボールを蹴っていたことは、鮮明に覚えております。後は、10周走やらセミやらシャトルランやら、やたら走ったことが記憶に残っています。ボールを蹴ることが楽しかったので、大学に入っても何かしらサッカーを続けていたと覚えていたところ、地域の小学生にサッカーを教える機会がありました。教える立場になって初めて、宮本先生が練習で意図し

ていた内容が切実に理解できたことが多く、高校生の時にこの感覚ができていれば、もうちょっとだけサッカーが上手くなっていたら、後悔もしました。ま、人はそうやって成長していくのですね。

城北高校サッカー部で最もためになつてことは、一緒にサッカーをした仲間と、そして決してあきらめない気持ちだと感じます。苦しいときに相談したり助け合ったりできる仲間と、何があっても負けないと思う気持ちを、高校時代に得られたことは、今でも貴重な財産として自分の中にあります。今こそ、1年に1度も会えないことが多くなりましたが、せめて初蹴りには参加して、ボールを蹴り、酒を呑み、いい時間をすごしたいと思えます。それでは皆様、来年の初蹴りでお会いしましょう。

城北サッカー部

38回生 横島 渉

「城北サッカー部」。この言葉を聞いて、OBの方々、現役の選手達はそれぞれ何を思い浮かべるであろうか。もちろんそれは個人個人によって全く異なつたものであろうし、思い浮かべたものはどれも間違いではないであろう。ここでは僕の思い浮かべる「城北サッカー部」について述べたいと思う。最初に僕が思うのは「数多くの人間と出会つたところ」である。宮本先生を始めとするスタッフの方々、頼れる先輩達、信用できる仲間達、後をついてきてくれた後輩達と、挙げればきりが無い。出会つた人間全てが素晴らしい、完璧な人間達であつたとは思えないが、出会つた人間全てから何か得るものがあり、僕が成長し続けたと思つている。この点において、「城北サッカー部」というのは、「自分の人間性を確立させたところ」とも言うことができる。次に思うことは、「確実にレベルアップし続けている」ということだ。僕が現役時代に3年間プレーしてきた中だけでも毎年大きくレベルアップしていると肌で感じることができた。実際僕らが3年生の時には13年ぶりに県大会に出場し、ベスト16という結果も出した。引退した後、コンスタン

広島城北高校サッカー部OB会長

吉川 英司

皆様、こんにちは。今年の初蹴りの時は天気が悪かつたにもかかわらず、たくさんOBに参加していただき誠にありがとうございます。

もうすでに皆様の耳にも、今年の現役の春の「県大会ベスト8」と「県大会ベスト16」の朗報は耳に届いている事と思います。やはり、OBの一員として現役の活躍は本当にうれしく思います。これもひとえにOBの皆様一人一人の尽力の賜物だと、そして、現場で指導してくれている宮本監督・岩井コーチ・黒瀬先生の努力の結果だと感謝しております。

このOB会報「最上段(最上段グラウンドの意)」も回を重ね、発行回数4回目を迎えることとなりました。私自身この会報が出来上が

り我が家に届くと、「今回は誰が書いてくれるだろう？」とすぐく気がなり、会社から夜中に帰宅しても必ず読んで寝るという程楽しみなものになってます。ただ、この会報の発行にしても、サッカー部の後輩の印刷会社で割安の料金(「ただ同然」)でサービスしてもらい非常に助かっています。

今回、この会報を通じてOBの皆様へ伝えたいことがあります。「人脈は宝」ということです。皆さん大学生活・会社生活を過ごす上で必ず、「いろいろな場面で壁にぶち当たる」局面を迎えると思います。その時に、「真の意」で皆さんを支えてくれるのがこの「城北サッカー部OB会」のメンバーではなからうかと思えます。利害関係なく、胸のうちの話をきり言える関係、そういった仲間を今後も皆さん一人一人の力でどんどん増やしていきたいでしょう。この、OB会のメンバーも去年より

今年、今年より来年と人数(仲間)を増やし続け、毎年の「初蹴り」にはOBだけで5チーム10チームできるほど集まろうではありませんか。私自身会社生活が長くなるにつれて、責任も重くなり片時も片時も悩む・問題点は日々出てきます。そんな時、同級生の宮本監督の頑張り等、ふと考え自分自身への発奮材料にしています。ここで、皆さんに改めて宿題を出します。必ず、来年の「初蹴り」には、同年代で初参加者を最低1名連れてきてください。宜しく願います。

また、来年の「初蹴り」は元気な顔で皆様に会えるのを楽しみにしています。

近況報告

広島城北高校サッカー部は、すでに報告させていただきましたが、今年の県高校新人サッカー大会(新人戦)において20年ぶりに広島県ベスト8に進出しました。また、広島県高校総体においても昨年まで二年連続して県大会出場を果たしており、一歩ずつ着実に力をつけてきました。

広島県高校新人大会 地区予選

- 対 広大附属高校 平成15年1月11日(土) 2-0 (1-0 1-0)
全体的なボール支配率は高かったものの、DFラインの対応にやや不安を残す。
- 対 近大東広島 平成15年1月18日(土) 5-0 (2-0 3-0)
試合開始早々に得点し、その後も着実に追加点を奪う。
- 対 工大高校 平成15年1月19日(日) 0-0 (0-0 0-0 PK4-3)
内容では押されたものの、若いDF陣らの踏ん張りで失点を免れ、PK勝ちを呼び込む。

同 県大会

- 対 庄原格致高校 平成15年2月2日(日) 4-0 (1-0 3-0)
FW陣が奮闘し、危なげなく快勝する。
- 対 吉田高校 平成15年2月8日(土) 2-2 (1-1 0-0 延長1-0 0-1 PK4-2)
圧倒的に押しながら先取点を奪われる嫌な展開、しかし最後まで集中して戦い、PK合戦を制す。
- 対 観音高校 平成15年2月9日(日) 1-3 (1-1 0-2)
先取点を奪って勢いに乗るも、後半途中やや足がとまり、立て続けに失点し力尽く。

広島県高校総体 地区予選

- 対 近大東広島 平成15年4月19日(土) 2-0 (0-0 2-0)
先の新人戦地区予選で大勝した油断があったのか、立ち上がりからいまいひとつピリッとせず、単純なミス連発し、もどかしい展開が続いた。後半広瀬(3年生・FW)、聖川(2年生・DF)のゴールで勝利は手にしたものの、フラストレーションのたまるゲーム内容だった。
- 対 宮島工業高校 平成15年4月27日(日) 2-0 (0-0 2-0)
初戦の反省を踏まえ、気持ちを入れなおして臨んだゲームだったが、総じて満足のいく内容ではなかった。簡単にボールをロストしてしまう場面も多く、数こそ少なかったがヒヤリとさせられる場面もあった。前戦同様、前半は0-0で折り返したが、後半に入り次第に城北本来のスタイルを取り戻し、小島(3年生・MF)、広瀬のゴールでリードを奪うことに成功した。主将・高(3年生・DF)を中心に、予選を無失点で通過したのが、数少ない収穫だった。

同 県大会

- 対 呉昭和高校 平成15年6月1日(日) 1-0 (1-0 0-0)
前評判の高い対戦相手に対し、①相手のパスの出所を消す、②ロングボールと繋ぐパスの使い分け、この2点を確認して、ゲームに臨んだ。ワンツーで何度か危ない場面を作られたが、選手は動じることなく冷静に対処し、無失点で切り抜けた。得点こそ前半終了間際の児玉(1年生・MF)のミドルシュートによる1点にとどまったが、個人的には「葦陽高校で勝てない」ジンクスを止めることができたことにほっとした。
- 対 工大高校 平成15年6月2日(月) 0-1 (0-0 0-1)
PK勝ちを拾った新人戦では圧倒的に押されたイメージがあったが、このゲームでは五角以上の戦いを展開することができた。浅海(2年生・DF)を中心とした守備陣も、相手の攻撃を堅実に跳ね返し続けたものの、後半13分にやや不運な形から失点した。その後は城北の猛攻が続き、何度も工大ゴール前に迫ったが、あと一歩及ばず、新人戦のベスト8という結果には届かなかった。

現在県内における広島城北高校サッカー部への評価は非常に高く、対戦するチームもだんだんと警戒心を高めているようです。もちろん「受けてたつ」のが城北のスタイルでないのは、選手、スタッフとも十分に理解しています。今回のベスト16という結果は、残念な気持ちと同時に、今後に向けより一層の精進を続ける決意を与えてくれました。大会後は毎回多くの課題が出てきますが、①個々のフィジカル面のベースアップ、②1対1の強化及びスキルアップには早急に取り組もうと考えています。

今回30回生の猶崎修平君がスタッフ入りし、チーム強化に向け心強いメンバーが増えました。また3名の3年生が現役を続けることもあり、これまで好成績を残せていない、選手権大会2次リーグ進出を当面の目標とし、チームはスタートしました。広島城北高校サッカー部のさらなる飛躍にご期待ください。

広島城北高校サッカー部 コーチ 岩井 竜彦

QPONのひとり言

今年で、城北で指導を始めて13年目になります。本当に早いな~と思うのと同時に、「俺は何ができたのだろう」と...

9年前に、黒瀬先生が部長になられ、岩井コーチが本格的に指導を始めたのが7、8年前からですかね。5年前に大下宗史先生が中学の監督に来られて、昨年からは、菊一トレーナーが帰ってきて、今年から猶崎コーチも帰ってきました。

「俺のやることなくなつたじゃん」って感じです。そろそろ、本当に「たきび係」かな。

まあ、やることなくても「卒業式の約束」だけは、忘れてないよ。

「お前たちの帰ってくる場所は、人生かけて守ってやる！」
「最上段グラウンドの管理人」 宮本 誠

携帯電話 090-2296-5967
E-mail qpon@do.enjoy.ne.jp
fantasista-qpon@docomo.ne.jp

